

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071501557
法人名	社会福祉法人 それいゆ
事業所名	グループホーム なかまちの家
所在地 (電話番号)	大牟田市中町1丁目5-2 (電話) 0944-41-5315
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 5月 19日

## 【情報提供票より】(平成 19年 4月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費	有り	
敷金	(有) 240,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 4月 10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	56歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田共立病院 松田歯科医院 園田歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列の介護老人福祉施設やケアハウスと同一敷地内にあるが、玄関を入ると懐かしい我が家(実家)が「お帰りなさい」と暖かく迎えてくれる。ドアを開け居間に入ると郷愁をそそる居場所がある。其の向こうには生き生きとした利用者の姿や、はつらつとして働いている職員の姿がある。ホームには利用者の希望で飼われている室内犬がそれぞれのユニットに一匹づつおり、抱っこしたり、一緒に散歩したりと利用者の心をなごませている。ホームの裏にある小さな畑には、季節の野菜が植えられ、畑仕事を楽しみながら道路を歩き交う人びとに挨拶が交わされている。『「自由な暮らし」「願いや想い」「人との絆」そして「自分らしさ」を大切にします』という理念の下、気負わず自然に、利用者の立場に立ち、また人との絆を大切に家族や地域との交流が率先して行われている。地域密着型サービスとして今後ますます期待される事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回乳製品の少なさを指摘されたので、朝と昼に手作りヨーグルトを出すことを決め、即実行した。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は自己評価および外部評価を実施する意義を理解している。全職員で自己評価を行い、まとめたものを評価機関に送っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者代表、利用者家族代表、警察、消防署、包括支援センター、系列事業所、管理者が出席し、自己評価、外部評価の報告、活動状況等を報告し、意見や助言を受けスタッフ会議で全職員に伝達し、サービスの向上に生かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	隔月行われている家族会の時に近況報告や職員の移動等の報告を行っている。また面会時にも近況報告や金銭出納帳、ケアプランの確認をして頂いている。遠方の方には毎月請求書を送るときに、手紙をつけたり電話で健康状態や近況報告をしている。運営に関しては職員を除いた家族会の中で、忌憚の無い意見や要望、苦情を出して頂き、苦情や要望に対してはすぐ対応するようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の幼稚園を訪問したり、小学校の運動会に招待を受けたり、クリーンアップ運動や子供見守り隊等の地域の行事に、利用者と一緒に参加したりして、地域と良好な関係を築いている。また地域の方から昔懐かしい建具や道具を譲り受け、家庭らしい落ち着いた環境作りに一役かっている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けられるように、職員全員で「自由な暮らし」「願いや想い」「人との絆」そして「自分らしさを」大切にします、という理念を作り上げている。理念一つひとつに具体的に文章が添えられており、「人との絆」には家族と地域の人の絆について書かれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に全員で理念を唱和し、意識付けている。管理者と職員は理念を共有しており、現場で何かの課題にぶつかった時には、理念を振り返り、課題解決に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の幼稚園を訪問したり、小学校の運動会に招待を受けたり、クリーンアップ運動や子供見守り隊等の地域の行事に、利用者と一緒に参加したりして、地域と良好な関係を築いている。また地域の方から昔懐かしい建具や道具を譲り受け、家庭らしい落ち着いた環境づくりに一役かっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。全職員が自己評価を行い、まとめたものを評価機関に送っている。前回の改善点を会議にかけ、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者代表、利用者家族代表、警察、消防署、包括支援センター、系列事業所、管理者が出席している。自己評価、外部評価の報告、活動状況等を報告し、意見や助言を受け、スタッフ会議で全職員に伝達してサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの連携や、行政職員の訪問受け入れ、市職員の新人研修の受け入れ等を行い、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	法人全体で毎年、職員対象に権利擁護に関する制度の研修が行われ、家族に対しての制度の説明は家族会で行っている。現在2名の方が成年後見制度を活用されている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月行われている家族会の時に近況報告や職員の移動等の報告を行っている。また、家族の訪問時にも近況報告や金銭出納帳、ケアプランの確認をして頂いている。遠方の方には毎月請求書を送るときに、手紙をつけたり電話で健康状態や近況を報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月家族会が行われており、職員を除いた会議の中で、忌憚のない意見や要望、苦情等を出して頂き、苦情や要望にはすぐ対応するようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、利用者が混乱を起こさないように配慮して行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢、性別等によって採用対象から排除をしていない。事業所で働く職員は個人の能力が発揮でき、生き生きと勤務している。社会参加や自己実現の権利も十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新入職員への集中的なオリエンテーションや系列施設での全職員参加の研修で人権教育が行われ、理念に基づいてケアの中で常日頃より取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や他事業所の研修に積極的に参加を呼びかけている。系列施設での研修の時は管理者が勤務を代わり、出来る限り全職員が参加出来るように配慮している。研修生を受け入れる時は職員をつけ、職員が力を発揮出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他グループホームとの交流、グループホーム協議会への参加、研修会の参加等を通じて、気づきをサービスの質の向上に生かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	系列施設のデイサービスやショートステイを利用して頂きながらグループホームに遊びに来て頂いたり、入院中の方には時々面会に行き、顔馴染みの関係を作るように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者を特別扱いするのではなく、共に支え、支えられ一緒に過ごしながら、利用者の力を発揮できる場面作りをしたり、利用者は人生の先輩として生活の技や知恵を学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者からの声かけで利用者の会「なかよし会」がつけられ、「なかよし会」が意見や希望の発言の場となっている。職員が記録するとともに、希望・意向の把握をし、支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	大牟田方式で家族や利用者から、また利用者の日常の状態の記録や何気ない会話から情報をしっかり得て、アセスメントを行い、全職員で利用者本意の介護計画を作成している。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1度、また状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。モニタリングを行っているが、その記載が次の計画立案に向けて大まかである。介護計画に作成日記載がなく、カンファレンス日と介護計画作成日にズレが見られた。	○	モニタリングの記載の検討が望まれる。また、介護計画作成日の記載やカンファレンスと介護計画作成日の整合性が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間、医療連携が可能である。病院への移送、遠方へのドライブ、家族と連携をとっての外泊等のサービスを行っている。雷や台風の時、一人暮らしの近所の高齢者が防災のため泊まれたことがある。認知症の共用型デイサービスを申請中である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族と話し合っ、希望する医療機関に受診できるようにしている。往診があったり、病院から迎えに来たり、通院介助をしたりと、さまざまな形態での支援が行われている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてターミナルを受け入れる方針があり、マニュアルも作成している。入居後、早い段階で利用者や家族とターミナルについて話し合い、「医療受診確認書」を書いてもらっている。利用者や家族の考えの変化があることを配慮し、変更についての話し合いも行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを大切にした対応の徹底を図っている。生活暦を含む個人記録のファイルがリビングに置かれ、利用者自身や家族はその記録をいつでも閲覧できるようにしている。他人も見ることが可能であるが、見ることはない。他人が閲覧できる状態については、全家族の了解を得ている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	屋近くに起床する人もいるが、起床や日中の過ごし方等、その人の体調や状況に応じて、また利用者の気持ちを尊重して個別性のある対応を行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備から味見、片付け、茶碗洗い、食器拭き等、やりたい人やできる人ができることを職員と一緒にしている。旬の食材や小さな畑で収穫した食材を使って、利用者も職員も一緒に楽しんで料理をするとともに、食卓を囲んでいる。月に1回は外食したり、利用者の要望がある時は個別に出前をとったり、食べるということを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後から入ることができる。一番風呂が好きな人、一番最後がいいという人、一人ひとり希望を聞きながら支援している。一番遅い人の入浴時間は、20時30分ごろである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、おやつづくり、買い物、刺し子、時にはかまどでご飯を炊いたりなど、昔とった杵柄を活かして、役割が楽しみとなるような支援をしている。刺し子の作品がたくさんできており、バザーで売るんだと利用者は、意欲満々である。また、月に2回程度、地域の小学生の下校時見守りに参加している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調、利用者の希望によって、戸外へ出ることを多くしている。散歩、犬の散歩、買い物では自分の物を選んで購入したり、食材の買い物ついでにコーヒーを飲んだり、おにぎりを持って戸外に出たり、花見、外食、ドライブ等、外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をしておらず、出入りは自由である。玄関にはセンサーをつけ、リビングで小さい音になるようにしているので、人の出入りがわかる。出かけそうな時は、それとなく声掛けをして付き添っている。もう一箇所の出口はのれんを掛け、出口とわからないように工夫している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の組織図、マニュアルを作成し、年2回消火訓練を行っている。夜間想定も行っている。運営推進会議で消防署や地域の協力が得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日記録し、概ね把握している。特に水分摂取については気をつけており、水分補給の工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの大きな窓のあるリビングは、適度な明るさと風通しに留意されている。リビングからはテラスに置いているプランタの季節の花を眺めることができる。また、音と衝撃を和らげる床張りになっていて、スリッパは履かない。そのリビングには、地域の人からいただいた古い箆箆や障子などでコーナーを作ったり、昔使っていた足踏みミシンや生活用品が所狭しと置かれ、心地よい落ち着ける雰囲気づくりがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、テレビ、時計、冷蔵庫、家族の写真、仏壇等を持ち込み、個性あるその人にとって居心地のいい居室となるよう配慮されている。		